



大迫 隆 男

おおさこ・たかお

生命・錯体分子科学研究領域
錯体触媒研究部門 助教



大阪市立大学大学院理学研究科で学位取得後、米国ワシントン大学博士研究員（学振海外特別研究員）を経て、平成20年1月に錯体触媒研究部門魚住研究室の助教として分子科学研究所に着任致しました。現在、不均一系触媒として機能する配位高分子錯体の開発を目指し研究を展開しています。新たな分子科学の開拓を目指し、頑張っていきたいと思えます。皆様どうぞよろしくお願い致します。

野 中 大 輔

のなか・だいすけ

岡崎統合バイオサイエンスセンター
戦略的方法論研究領域 非常勤研究員



九州大学にて学位を取得後、同大学での研究員を経て、平成20年2月から研究員として藤井Gに在籍しております。分子研へは九州大学に在学中から協力研究という形で何度か実験にお邪魔しておりましたが、今年からは研究員として気持ちも新たに頑張っていこうと思っています。専門はヘムタンパク質の機能解析ですが、こちらでは様々な機器を使った分析手法を駆使することで、研究の幅を広げて行ければと考えています。よろしくお願いいたします。

阿 達 正 浩

あだち・まさひろ

極端紫外光研究施設
光源加速器開発研究部門 助教



3月よりUVSOR加藤グループにお世話になっております。大学ではレーザーとプラズマとの相互作用を利用した小型電子加速器の開発を行い、その後、原子力機構高崎研では高速クラスターイオンビームの照射効果に関する研究を行ってきました。こちらでは電子ビームとレーザーとの相互作用による新しい光源の開発・研究を行っています。

どうぞよろしくお願い致します。

戸 谷 明 子

とや・あきこ

計算科学研究センター
事務支援員



皆様、こんにちは。レターズには2回目の登場で新人と呼べるかどうか？ 主人の転勤で一度退職し、戻って参りましたので再びお世話になることになりました。よろしくお願い致します。

平 本 昌 宏

ひらもと・まさひろ

分子スケールナノサイエンスセンター
ナノ分子科学研究部門 教授



広島に生まれ（1958年）、大阪大学基礎工学研究科において博士課程中退後、分子研文部技官（84年）、大阪大学工学部助手（88年）、同工学研究科准教授（97年）を経て、今年4月に現職に着任いたしました。超高純度化、ナノ構造制御、有機/金属界面解明などの有機半導体の基礎科学を推進し、有機エレクトロニクスデバイス、有機太陽電池に応用していこうと考えております。20年ぶりの分子研でなつかしいですが、知らないことも多くあり、いろいろとお教えいただけましたら助かります。よろしくおねがいいたします。

加 藤 晃 一

かとう・こういち

生命・錯体分子科学研究領域
生体分子機能研究部門 教授



昨年度まで名古屋市立大学大学院薬学研究科教授を本務とし、先導分子科学研究部門の客員教授をつとめてまいりましたが、本年度より岡崎統合バイオサイエンスセンターを本務地として着任いたしました。超高磁場NMR分光法を基盤に、複合糖質・タンパク質およびその複合体を対象にした生命分子科学の新機軸を開拓することを目指した研究を展開したいと考えてます。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。

倉重 佑輝

くらしげ・ゆうき

理論・計算分子科学研究領域
理論分子科学第一研究部門 助教



東京大学工学系博士課程を修了し、4月1日より理論第一(柳井グループ)の助教に着任しました。

博士在学中は、ナノ・バイオ系に向けた大規模電子状態計算法の開発を行って参りました。

気分を変えて分子研では、金属含有化合物をターゲットとした高精度電子状態理論の開発に取り組んでいます。

至らぬところも多いかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

山根 宏之

やまね・ひろゆき

光分子科学研究領域
光分子科学第三研究部門 助教



千葉大学大学院自然科学研究科博士後期課程、日本学術振興会特別研究員(名大院理)を経て、4月から小杉グループでお世話になっています。これまでは真空紫外領域の光電子分光法を利用した有機半導体薄膜の電子状態に関する研究を行ってきました。今後は軟X線による内殻励起を利用してこれまでの研究を発展させる予定です。趣味? は育児です。メロメロです。よろしくお願いいたします。

齊藤 碧

さいとう・みどり

技術課 機器利用技術班
機器利用技術一係 係員



立命館大学理工学研究科博士前期課程を修了し、平成20年4月より、機器センターの技術職員としてお世話になっております。高分解能透過型電子顕微鏡を担当しております。

力不足ではありますが、皆様との交流を通じて多くの技術や知識を身につけて、お役に立てるよう努力していきます。よろしくお願いいたします。

長屋 貴量

ながや・たかかず

技術課 計算科学技術班
計算科学技術二係 係員



平成20年3月に名古屋大学大学院理学研究科博士前期課程を修了し、同4月よりこちらに着任いたしました。それまでは金属含有タンパク質の機能改変や、鉄/コバルト酸化物から成るピンポン球型磁石の磁性について研究してきたので、計算科学や大型計算機についてあまり知識がないのですが、日々勉強し皆様のお役に立てるように頑張っている所です。どうぞよろしくお願いいたします。

原田 洋介

はらだ・ようすけ

光分子科学研究領域
光分子科学第一研究部門 研究員



東京工業大学理工学研究科にて学位取得後、東工大資源化学研究所での特別研究員を経て、この4月から研究員として採用されました。学生時代はレーザー光化学、特に時間分解分光法を用いた光化学反応ダイナミクスの研究を行い、資源研では高分子化学にも携わりました。分子研に来て、気持ちも新たに、さらに研究に邁進していくつもりです。

どうぞよろしくお願いいたします。

山本 勇

やまもと・いさむ

物質分子科学研究領域
電子構造研究部門 研究員



平成20年3月に千葉大学大学院自然科学研究科で博士(工学)を取得後、同年4月より横山グループでお世話になっております。これまでは超短パルスレーザーを用いた顕微光電子分光法の開発を行い、有機半導体薄膜の電子状態研究を行ってきました。分子研では、さらに視野を広げ、積極的に新しいことに挑戦していきたいと考えています。

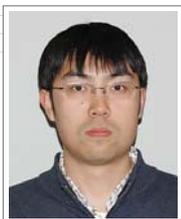
どうぞよろしくお願いいたします。



岩瀬 文 達

いわせ・ふみたつ

物質分子科学研究領域
電子物性研究部門 非常勤研究員



東京大学工学系研究科博士課程修了後、電子物性部門中村グループの研究員として採用されました。IMSでは心機一転、磁性や電気伝導性・強誘電性などが複雑に絡み合う有機導体の物性研究に励んでいきます。

よろしくお祈いします。

浜 坂 剛

はまさか・ごう

生命・錯体分子科学研究領域
錯体触媒部門 非常勤研究員



平成20年3月に北海道大学大学院理学研究科化学専攻を修了し、この4月から魚住グループにてIMSフェローとしてお世話になっています。

学生時代はシリカゲル担持錯体を用いた触媒反応に関する研究を行っていました。分子研という非常に恵まれた環境のもと、日々研究に励みたいと思います。

よろしくお祈い致します。

今 宏 樹

こん・ひろき

分子スケールナノサイエンスセンター
ナノ分子化学研究部門 非常勤研究員



平成20年3月に北海道大学大学院理学研究科博士後期課程を修了し、同年4月よりナノセンター永田グループでお世話になっています。

これまでずっと札幌で過ごしてきて、初の本州という事で暑さ等が若干不安ですが、充実した研究生活を送れるように努力したいと思います。

よろしくお祈いします。

近 藤 直 子

こんどう・なおこ

理論・計算分子科学研究領域
理論分子科学第一部門 事務支援員



平成20年4月1日より事務支援員としてお世話になっています。仕事の方はまだまだ半人前ですが、周りの方々に助けていただきながら何とか日々を過ごしております。

最初は迷路のような分子研の建物にとまどいしましたが、それにも少しずつ慣れてきました。

早く仕事にも慣れて少しでも皆さんのお役に立てるように頑張りますので、どうぞよろしくお祈い致します。

眞 壁 幸 樹

まかべ・こうき

岡崎統合バイオサイエンスセンター
戦略的方法論研究領域 助教



東北大学工学研究科で学位取得後、シカゴ大学での博士研究員を経て、平成20年4月1日より現職に着任いたしました。ポリペプチドである蛋白質が、どのようにして複雑な高次構造を形成するのか研究をしています。分子研では新たな測定技術を用いて、研究の幅を広げたいと思っています。

今後ともよろしくお祈いいたします。

石 谷 隆 広

いしがい・たかひろ

計算科学研究センター
特定契約職員 専門研究職員



4月から「次世代スパコンプロジェクト・グランドチャレンジアプリケーション研究拠点（ナノ分野）」（分子研レターズ前号P18 参照）の事務局で広報ほかを担当しております。6月には本プロジェクトの第一回国際会議開催をお手伝いし、ノーベル賞受賞者も含め国内外の著名な研究者の皆様にお会いすることができました。このような機会が得られるのも分子研ならではの感謝しております。尚、本プロジェクトにつきましては、以下のURLをご覧ください。

URL:<http://nanogc.ims.ac.jp/nanogc/>
今後とも、よろしくお祈い致します。

神谷 由紀子

かみや・ゆきこ

生命・錯体分子科学研究領域
生体分子機能研究部門 研究員



名古屋市立大学大学院薬学研究科で学位取得後、今年4月より分子科学研究所の博士研究員として採用されました。分子科学研究所では糖鎖の立体構造やダイナミクスを解析することによって、糖鎖を物理化学的に理解し、糖鎖が担う生命現象の仕組みを新たな視点で捉えていきたいと思っています。皆様どうぞよろしくお願いたします。

種村 博代

たねむら・ひろよ

分子スケールナノサイエンスセンター
ナノ分子科学部門 技術支援員

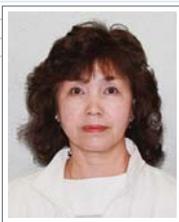


平成20年5月1日より、分子スケールナノサイエンスセンター ナノ分子科学部門で技術支援員としてお世話になっております。
永田先生をはじめ研究室の皆様と一緒に、毎日楽しく仕事ができることをたいへん感謝しております。
精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願いたします。

鈴木 万里子

すずき・まりこ

岡崎統合バイオサイエンスセンター
生命環境研究領域 技術支援員



平成20年5月より、生命分子研究部門の加藤グループで、技術支援員としてお世話になっております。
機構の立派な施設と研究室のなごやかな環境の中で、自分も早く成長できるように頑張りたいと思っています。
皆様のご指導よろしくお願いたします。

山口 拓実

やまぐち・たくみ

生命・錯体分子科学研究領域
生体分子機能研究部門 助教



東京大学大学院工学系研究科にて博士課程修了の後、同技術補佐員を経て、5月より統合バイオ加藤グループに加わりました。これまで専攻してきた有機化学・錯体化学を礎に、心機一転、新しいサイエンスへ挑んでいこうと思っています。研究分野においても駆け出しの、名実ともに新人ですが、どうぞよろしくお願いたします。

江原 正博

えはら・まさひろ

計算科学研究センター 教授



京都大学で博士課程終了後、基礎化学研究所博士研究員、京都大学工学研究科助手、助教授を経て、本年6月に計算科学研究センターに教授として着任致しました。専門は量子化学で高精度な電子状態理論の開発と理論精密分光・光物性科学への応用を行ってきました。今後は電子状態理論を核として新しい理論化学を切り拓く研究を目指します。
よろしくお願致します。

池 滝 何 以

いけたき・かい

分子スケールナノサイエンスセンター
ナノ分子科学研究部門 非常勤研究員



このたび6月1日付をもちまして、分子スケールナノサイエンスセンターの平本グループに着任しました。名古屋大学で学位を取得するまでは、主に、有機半導体薄膜の構造と電子構造に関する研究を行っていました。平本グループでは、有機太陽電池の高効率化に取り組みます。早くこの分野の研究に慣れて、成果を出せるよう努力していきたいと思ひます。
今後ともよろしくお願いたします。



NEW STAFF

新人自己紹介

田中 景

たなか・けい

戦略的方法論 生体分子物性（桑島G）、
生命分子（加藤G） 事務支援員



岡崎統合バイオサイエンスセンター時系列生命現象研究領域 神経分化で2年勤めた後6月1日より戦略的方法論 生体分子物性（桑島G）生命分子（加藤G）で事務を担当しております。

生理研から分子研への異動で勝手のわからないところもありまた至らない点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが精一杯努めますのでよろしくお願いたします。

Happy Hour で「幸せな泡」

山手地区では有志が中心となって月に一度のペースで Happy Hour を開催している。これは米国の大学などで department や school 単位で催されるものを模して「研究所や研究室の垣根を超えた自由な交流の場を提供する」ことを眼目とし山手地区教官有志の寄付で運営されるビール、ソフトドリンクなどのコップを片手に気ままに談笑する会である。参加無料、参加資格は特になく参加の意思を持つ人なら誰でも口元をホップの効いた「幸せな泡」で飾ることができる。



山手地区は3研究所及び統合バイオセンターが一つ屋根に集うため、そのせっきくの地の利を活かし自由闊達な交流を持つことが相互にメリットが大きいと考え、かねてより研究上の交流が浅からぬ永山（統合バイオ）魚住（分子研）両グループが言い出しっぺとなり、統合バイオ事務室の協力を得て2008年3月に船出をした集まりであり、これまでの数回は各会50～60名の参加を得て和やかかつ賑やかな会となっている。

過度に「宴会」「飲み会」の態になることなく、節度ある研究所間交流の場として今後末永く定着させて行きたいと切に願っている。もちろん明大寺地区からの参加も大歓迎である。どこかで Happy Hour の案内を見かけたら「のどを潤す」くらいの軽い気持ちで是非一度覗いてみてほしい。
(魚住泰広)